県内9か所の農業改良普及センターからの新鮮な現地情報をお届けいたします。

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

# みやぎの 農業普及現場 ８月号

**NEWS LETTER No.174 2021.8**

紹介内容（7/1～7/31）

## １．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化


**① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1**

○ 仙　台農改：集落営農法人設立後初の農作業！　長ねぎ栽培が始まる
○ 仙　台農改：葉面積指数（推定 LAI）推定のためのミニトマト葉面積調査を行いました
○ 亘　理農改：令和３年産ＪＡみやぎ亘理いちご部会の出荷販売金額が震災後最高額を達成！
○ 仙　台農改：えだまめの先進地視察研修を開催しました
○ 石　巻農改：若手社員がミニトマトの栽培技術向上に励んでいます！

**② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2**

○ 登　米農改：登米市農業士会の新任退任式が開催されました
○ 栗　原農改：くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」を開催しました
○ 美　里農改：大貫長根営農組合が法人化に向けた説明会を開催しました
○ 亘　理農改：みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました！
○ 栗　原農改：関係機関とともに新規就農者をサポート訪問
○ 美　里農改：農業大学校１年生による普及センター訪問が行われました

**③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・4**

○ 亘　理農改：水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました！
○ 石　巻農改：放牧現地指導会を開催しました
○ 仙　台農改：令和３年度第１回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
○ 仙　台農改：今後の水管理や追肥に向けて「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

**④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6**

○ 亘　理農改：亘理町のりんご生産者が研修会を開催しました
○ 大河原農改：ＪＡみやぎ仙南蔵王地区なし部会現地検討会が開催されました
○ 亘　理農改：仙台せり振興協議会役員会が開催されました
○ 大河原農改：宮城県ころ柿出荷協同組合現地検討会が開催されました
○ 仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました
○ 亘　理農改：亘理地域にて「第２回シャインマスカット栽培研修会」を開催しました
○ 美　里農改：青ねぎの現地検討会・出荷説明会が開催されました
○ 大河原農改：ＪＡみやぎ仙南白石地区果樹部会現地検討会が開催されました
○ 石　巻農改：関係機関一体となって園芸特産振興を図ります
○ 亘　理農改：ハナトピア産直市の野菜栽培講習会が開催されました！
○ 登　米農改：登米市内のりんご凍霜害の実態が明らかになってきました
○ 大　崎農改：あ・ら・伊達な道の駅花卉部会の露地ギク現地検討会を開催しました
○ 大　崎農改：ＪＡ古川いちご部会親株巡回指導を実施しました！
○ 石　巻農改：長ねぎ現地検討会を開催しました
○ 亘　理農改：りんご研修会を開催しました



このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

④　**園芸産地の育成・強化支援**　（続き）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました
○　仙　台農改：いちご親株苗増殖ほの巡回指導を行っています
○　栗　原農改：凍霜害対策技術（防霜ファン）勉強会を開催しました
○　石　巻農改：ＪＡいしのまき河南いちご部会実績検討会が開催されました
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひな地区本部ねぎ部会栽培講習会が開催されました
○　仙　台農改：えだまめの相互巡回検討会を開催しました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米花卉部会の菊現地検討会開催

⑤　**収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
○　大　崎農改：水稲採種ほ審査が始まりました
○　石　巻農改：みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座～」の開催
○　大　崎農改：ＪＡ加美よつば稲作部会色麻支部現地検討会が開催されました
○　栗　原農改：ＪＡ新みやぎ栗っこ地区稲作三部会合同ほ場巡回検討会が開催されました
○　亘　理農改：水稲あぜ道講習会が開催されました
○　栗　原農改：栗原地域で「だて正夢」「金のいぶき」の現地検討会を開催しました
○　大河原農改：令和３年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
○　登　米農改：令和３年度「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました
○　登　米農改：水稲種子生産ほ場の予備審査を行いました
○　亘　理農改：稲 WCS 専用品種「ホシアオバ」の生育状況を確認しました
○　石　巻農改：若手社員が水稲の栽培技術向上に励んでいます！

## ２．時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給

①　**時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
○　栗　原農改：栗原市内の水稲種子生産ほ場の現地巡回を行いました
○　気仙沼農改：宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会を開催しました
○　石　巻農改：ＪＡいしのまき水稲部会の現地検討会が開催されました

## ３．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

①　**地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
○　気仙沼農改：「南三陸クローバーウニ検証プロジェクト」の取組
○　大河原農改：集落の農業機械の集約を図る－集落営農組織の勉強会で今後を検討－
○　大河原農改：わらびを新たな地域資源に！わらび栽培視察研修会
○　栗　原農改：花山ルビィふさすぐり！今年は「スイーツｄｅ援農」と「おてつたび」で収穫応援！
○　気仙沼農改：大谷いも復活に向けた取組がテレビ放映されました

②　**環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
○　石　巻農改：GAP 研修会を行いました
○　気仙沼農改：南三陸町で田んぼの生き物観察会が開催されました
○　栗　原農改：志波姫有機米栽培協議会の環境保全米栽培現地検討会が開催されました

③　**大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
○　石　巻農改：石巻市大川，北上地区で被災農地の土づくり現地検討会を開催しました
○　石　巻農改：オリーブ巡回指導会

## ４．その他

①　**要請・緊急対策，その他**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
○　亘　理農改：名取市内の花き生産者を対象に高収益作物次期作支援交付金の申請支援を行いました

このニュースレターは，ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

## １．人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

### ○集落営農法人設立後初の農作業！　長ねぎ栽培が始まる

令和3年7月2日
仙台農業改良普及センター

仙台市西部の中山間地域である倉内・大針地区では，現在，農地整備事業が進められています。令和４年度から始まる工事を前に，持続的に集落営農を担う組織と導入作物を決定し，工事終了後スムーズに営農を開始するための準備が行われています。その集落営農の担い手として，令和３年２月５日に「農事組合法人うぇすとファーム仙台」が誕生しています。

６月８日，農地整備後に導入が予定されている長ねぎ栽培について，法人設立後，初めて取り組みました。構成員が補助事業で購入した真新しい管理機を初利用し，約７ａのほ場に５人で２時間程度で定植作業を終えることができました。

これを契機に今後，法人で取り組む農作業が増え，法人としての経営基盤づくりが進むことが期待されます。

### ○葉面積指数（推定LAI）推定のためのミニトマト葉面積調査を行いました

令和3年7月5日
仙台業改良普及センター

ミニトマトの栽培を行っている株式会社イグナルファーム大郷では，生育調査等を基にしたウィークリーレポートを作成し，ハウス内の環境制御の検討に活かしています。調査項目の一つに，葉面積指数（推定ＬＡＩ）があり，この値は「葉の生育調査結果」，「栽植密度」及び「品種ごとに異なる一定の係数」を基に算出します。当該法人では前作から品種構成を大幅に変更したことから，新たに導入した品種「キャロルムーン」で係数を算出する必要がありました（参考：「普及に移す技術第 96 号」）。

このため，当普及センターでは６月 24 日に現地で採取した葉 100 枚程度を，農業・園芸総合研究所へ持ち込み，担当者の協力のもと，この係数算出のため調査を行いました。調査では，「葉長」「葉幅」「葉面積」を１枚ごとに測定し，これらの数値を基にエクセルでデータ分析を行って係数を算出し，最後にこの係数を反映した推定ＬＡＩ算定シートの作成を行いました。

普及センターでは，推定ＬＡＩ等の環境制御の指標となるデータを栽培管理に活かし，収量が向上されるよう，引き続き支援を行っていきます。

### ○令和３年産JAみやぎ亘理いちご部会の出荷販売金額が震災後最高額を達成！

令和3年7月6日
亘理農業改良普及センター

いちごの最終出荷目前の６月 24 日にＪＡみやぎ亘理いちご部会の令和３年産出荷反省会が開催されました。本年もコロナ禍ということで，部会役員をはじめ，全農みやぎ，各市場，普及センター等の関係機関の代表が参集（もしくはリモート参加）し，開催されました。

令和３年産の販売金額は，計画を大きく上回る 31 億７千万円，出荷量 2,462ｔ，販売単価も昨年を上回る結果となりました。この実績は，震災以来最高額となり，震災から 10 年の節目を記念する喜ばしい結果になりました。

本年産の生産実績が伸びた要因としては，定植後の夜温低下が比較的低く推移し，極端な高温がない気象条件と，生産者各人が条件に合わせ，ハウス環境を適切に管理できたことがその理由と考えられます。今作は，作付期間を通じて大玉出荷が多く，Ｂ品が少ないという特徴もあり，各市場の手厚い販売協力により消費者まで届けられ，生産者の所得向上につながる結果となりました。

反省会は来期の更なる増収に向けた対策をまとめ，部会員に伝えることとし，閉会となりました。

普及センターは，今後もいちご産地を継続して支援してまいります。

### ○えだまめの先進地視察研修を開催しました
令和3年7月7日
仙台農業改良普及センター

大郷町前川地区では，農地整備事業完了後の高収益作物の導入に向けて，地区内の土地利用型法人４法人が初めてのえだまめ栽培に取り組んでいます。

６月 16 日，普及センターでは栽培技術の向上を目的に，指導対象である農事組合法人かすかわと有限会社薬師農産の他，地区内の有限会社大郷グリーンファーマーズの構成員を対象に先進地視察研修会を開催しました。視察先はえだまめ栽培に先進的に取り組んでいる仙台市の農事組合法人六郷南部実践組合で，組合長等３名に対応いただきました。始めに(農)六郷南部実践組合長から組合の概要を説明いただき，その後，ほ場に移動して栽培中のえだまめを見学しながら質疑応答を行いました。参加者からは活発に質問がなされた他，(農)六郷南部実践組合からも逆に質問がなされるなど，有意義な情報交換の機会となりました。

視察研修終了後，参加者からは栽培管理作業の細かい部分の話を直接聞くことができとても勉強になったという感想が聞かれ，生育が進んだ頃に再度，見学したいとの意見もありました。

普及センターでは今後も継続して生産者を支援していきます。

### ○若手社員がミニトマトの栽培技術向上に励んでいます！
令和3年7月14日
石巻農業改良普及センター

株式会社めぐいーと（東松島市）の若手社員がミニトマトの栽培技術向上のため，宮城県農業・園芸総合研究所を視察しました。

(株)めぐいーとは，水稲９４ha，大豆４３ha，麦２８ha，土地利用型部門のほか野菜　約 2.3 ha（施設 0.9 ha，露地 1.4 ha）の大規模な複合経営を行っています。石巻普及センターでは，同法人の組織力強化を目指して，社内の体制整備，園芸・水田部門の栽培管理技術の向上を支援しています。

今回は，園芸部門の社員４名が課題となっているやし殻培地でのミニトマト栽培技術向上のため，農業・園芸総合研究所で実践されているミニトマト栽培での養液管理や環境制御について学びました。

若手社員は，やし殻培地でのミニトマトの生育や日射量に応じた灌水量と肥料濃度の調整，排液の EC 測定の重要性などについて再確認しました。

## ②新たな担い手の確保・育成

### ○登米市農業士会の新任退任式が開催されました
令和3年7月6日
登米農業改良普及センター

６月 29 日，登米合同庁舎において，令和３年度登米市農業士会新任退任式が開催されました。

登米管内では，令和２年度末をもって青年農業士の活動期間が終了した石坂真紀さんが退任され，令和３年度新たに青年農業士として阿部善光さんが認定されました。

退任される石坂さんからは，「振り返れば，農業士としての５年間は，あっという間だったと感じました。他の農業士の皆さんの活躍している姿をみて，私自身，世間の動きや知識の習得，人との繋がりなど，非常にプラスになった５年間でした。そんな私の姿をみて，息子も将来は就農を希望するようになりました。今後は，息子や家族とともに，中山間で高齢化が進むこの地域の農業を担っていきたいと思います。また，農業のみならず地域のＰＲにも取り組んでいきたいと考えています。」との感想や抱負が述べられました。

また，新任された阿部さんからは，「同世代が少なく学びの機会が少なかったが，これをきっかけに積極的に参加して先輩方と交流を深め，様々なことを学んでいきたい。」との挨拶がありました。

## ○くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」を開催しました

令和3年7月12日
栗原農業改良普及センター

７月５日，栗原市市民活動支援センターで，くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」を開催しました。

これは栗原市の女性農業者が活き活きと輝いて活躍することを目的に，農業技術や農業経営に関する研修会を通しさらなるスキルアップを支援するもので，今回は多くの女性農業者が手がける「野菜」に焦点を当て，栽培や販売事例を学び，自身の経営を見つめ直すとともに，新たな経営展開のきっかけに役立ててもらおうと開催したものです。

初めに，宮城県指導農業士の庄子農園の庄子さおりさんより，「お客様の要望に合わせた野菜づくり～新鮮！！旬のおいしさを地域の皆様に届けたくて～」と題し講演をいただきました。

庄子さんは，仙台近郊で露地野菜を中心とした農業経営を営んでおり，主に飲食店をターゲットに，実需者の要望に応じた野菜生産をしている他，新品目や新品種に高いアンテナを持ち，生産者側から実需者に新たな野菜需要を提案する経営を展開されています。海外の種子を扱うことも多く，栽培マニュアルがない中で経験を頼りに栽培を試み，失敗を繰り返しながらも，気がつくと 100 種類以上を手がけ，多忙ながらも楽しく充実した農業経営を営んでいる様子をお話しいただきました。参加者は見たことのない野菜の名前や特徴などをメモし，質問していました。

講演後は，参加者全員で円陣を組み「あんだんちの野菜どないっしゃ？（お宅の野菜の調子はいかがですか？）」をテーマに情報交換会を開催しました。

「50 年もジャガイモを作ってきたのに，今年初めて失敗した。その理由は･･･」から始まり，「家庭菜園での喜びにとどまらず，直売所に出す喜びも皆に味わって欲しい」など，様々なおしゃべりの他，講師の庄子さんの「『楽しく農業をする』に感激した」といった感想も聞かれました。

普及センターでは，今後も研修会等を通じ，女性農業者が輝ける資質向上支援や環境整備を応援していきます。

## ○大貫長根営農組合が法人化に向けた説明会を開催しました

令和3年7月12日
美里農業改良普及センター

大崎市田尻にある大貫長根営農組合は，地域の農業を守る新たな担い手として法人化を目指し，６月 27 日に発起人会による集落説明会を開催しました。

今年２月の営農組合総会において発起人会が発足し，これまで 12 回の発起人会，６回の役員会，先進地視察２回を行いました。その中では，事前意向確認，事業活用に向けた要件の整理，法人運営の方向性などの議論を重ね，入念な準備と検討を行ってきました。

説明会では，発起人会による丁寧な説明と慎重な議論がなされ，無事閉会となりました。

今後は，８月８日の法人設立総会に向けて細部の検討を行い，関係機関との最終調整を経て，８月中旬の設立登記を目指す予定です。

## ○みやぎ農業未来塾「農業力資質向上講座」を開催しました！

令和3年7月26日
亘理農業改良普及センター

７月 12 日，当管内でいちごを栽培する新規就農者等を対象に，いちご栽培管理（育苗管理）技術の向上を図るとともに，新規就農者相互の交流を推進することを目的とした「農業力資質向上講座」を開催しました。

当管内の新規就農者数は，雇用就農を含め 30 名前後で推移しており，その過半が「いちご栽培」に従事しているのが特徴です。

今回の講座にも20名を超える新規就農者等が参加し，視察研修先では，育苗管理や施設設備等に関する活発な意見交換が行われました。
普及センターでは，引き続き，研修会の開催等により新規就農者の支援を行ってまいります。

**○関係機関とともに新規就農者をサポート訪問**
**令和3年7月27日**
**栗原農業改良普及センター**

７月７日及び13日，農業次世代人材投資事業（経営開始型）の交付を受けている５人の新規就農者に対して，市・ＪＡ・農業委員会の担当者とともにサポート訪問を行いました。
本事業の対象者に対しては，経営の早期安定を図るため，「技術」「経営」「農地」等専属の担当者（サポートチーム）を選任し，相談にあたっています。今回のサポート訪問では，７日に畜産農家を２戸（繁殖牛２），13日は園芸農家を３戸（露地野菜２，施設野菜１）訪問し，畜産農家では資金の活用，園芸農家では栽培技術を中心に指導を行いました。
今後も関係機関とともに，新規就農者の早期経営安定を支援していきます。

**○農業大学校1年生による普及センター訪問が行われました。**
**令和3年7月30日**
**美里農業改良普及センター**

宮城県農業大学校では１学年次に先進農家での体験学習を行っており，美里管内では５名の学生を農業法人で受け入れる予定となっています。体験学習に先立ち，当普及センターを学生が訪問しました。
最初に自己紹介を行い，学生からは農業に興味を持ったきっかけや将来の進路について話がされました。
続いて，普及センターから受け入れ農家の経営の特徴について説明を行い，その後の質疑応答で学生からは，美里地域の農業や研修先の農家の特徴はどうかなど活発な質問が出されました。
最後に，１人ずつ研修に当たっての決意を述べ，「社会に踏み出す感覚で学習し，将来の進路に活かしていきたい」「小さな目標を一つ一つクリアーし，大きな目標を達成したい」などの抱負が出されました。
先進農家体験学習は９～10月に33日間行われ，学生は農業者のもとで農業技術や経営を学習する予定です。

## ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

**○水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました！**
**令和3年7月1日**
**亘理農業改良普及センター**

東日本大震災後，担い手への農地集積が進み，大規模化や経営の多角化に応じた省力化技術として水稲乾田直播栽培が注目されていますが，「雑草防除」や「肥培管理」等，移植栽培とは異なる管理が必要となります。
普及センターでは，高い直播栽培技術を有するモデル経営体の育成を支援するため，２年前から「直播栽培勉強会」を立ち上げ，研究機関も交えて情報交換や技術的課題を検討しています。
今年度は，６月24日に岩沼市の乾田直播ほ場で勉強会の第１回目を開催しました。生産者21名，研究機関（東北農業研究センター及び古川農業試験場）を含む関係機関14名が参加し，苗立ち安定のための播種床つくりのポイントや，入水・雑草防除等の作業のタイミングについて参加者同士，活発に意見交換が行われました。
普及センターでは，今後も定期的に勉強会を開催し，乾田直播栽培技術の高位平準化に向けて支援をしていきます。

## ○放牧現地指導会を開催しました
令和3年7月14日
石巻農業改良普及センター

７月７日，酪農経営体（茂木幹司氏）の放牧地で放牧現地指導会を開催しました。

酪農経営は勤務時間が長く，ワークライフバランスが実現しにくいと考えられています。そのため，省力化や低コスト化，アニマルウェルフェアに対応した飼養管理を目指して，舎飼いではなく放牧酪農に取り組むため，一般社団法人日本種子協会の梨木守放牧アドバイザーを講師としてお迎えし，放牧地の維持管理方法や牧区の作り方など，放牧酪農について現地研修会を実施（関係機関７人が参加）しました。

茂木氏は，バターを自家生産し，地元の道の駅（上品の郷）や直売所（グリーンサムや元気いちば）で販売しております。宮城県内では初めてとなる放牧して育てた乳牛から生産加工された，ひと味違ったバターを御賞味ください。

## ○令和3年度第1回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました
令和3年7月30日
仙台農業改良普及センター

仙台普及センター管内では近年，生産者の水稲乾田直播栽培への関心が高く，特に仙台東部地区を中心にその面積が拡大しつつあります。このため，当該技術のさらなる普及拡大を目指し，今年度から重点活動に位置づけて支援しています。

今回，東北農研センター及び古川農業試験場から講師を招き，７月７日に令和３年度第１回水稲乾田直播栽培勉強会を開催し，生産者 29 人，関係者 26 人の計 55 人が出席しました。

研修では，始めに管内で栽培実績のある，農事組合法人仙台中央アグリサービスのほ場を見学し，普及センターから生育概況について説明しました。続いて見学したほ場の栽培管理について代表理事の堀江氏から，県内の乾田直播栽培の事例及び追肥等について古川農業試験場の職員から，それぞれ説明がありました。質疑応答の中で，ほ場準備や雑草防除などこれまでの栽培管理を振り返り，生産者から各講師への質問や生産者同士の意見交換も行われ，乾田直播栽培におけるポイントを改めて確認していました。また，東北農研センターの方々からは，その都度情報の補足やコメント等をしていただきました。

今後も普及センターでは，雑草防除等生産者が抱える課題解決を支援し，乾田直播栽培技術の早期定着を図ってまいります。

## ○今後の水管理や追肥に向けて「だて正夢」地域栽培塾を開催しました
令和3年7月30日
仙台農業改良普及センター

水稲品種「だて正夢」は宮城県が育成したプレミアムブランド米で，デビュー４年目になります。今年度管内の作付面積は約 100ha，登録生産者数は 69 人となっており，面積・生産者数ともに横ばいで推移しています。

「だて正夢」の収量及び品質を確保するためには，有効茎数の確保と籾の充実が重要であることから，７月８日に，仙台と黒川の２会場において地域栽培塾を開催しました。

管内の生育状況のほか，幼穂形成期及び減数分裂期における適期追肥，適切な水管理，病害虫防除などについて検討，昨年の反省点を踏まえた留意すべき栽培管理のポイントについて説明しました。その後，現地ほ場において耕種概要について説明するとともに，幼穂長や葉色の確認を行いました。

現地ほ場では，生産者同士の意見交換も行われ，追肥や今後の病害虫防除等の重要性を改めて確認していました。

## ④園芸産地の育成・強化支援

### ○亘理町のりんご生産者が研修会を開催しました
令和3年7月1日
亘理農業改良普及センター

亘理管内は県内有数のりんご生産地です。

りんご生産者が組織する亘理町果樹振興会（事務局：亘理町）では，６月 25 日に亘理農業改良普及センターの会議室を会場に「亘理町果樹振興会研修会」を開催しました。当日は，生産者や関係機関等 16 名の出席がありました。

今回の研修会では，今後の産地育成等に役立つ情報を学ぶことを目的に，県担当者を講師に，国の果樹関連事業や県内果樹産地での取組み状況等の紹介がありました。

亘理地域では，改植樹齢を迎えた園地や新植等を予定している経営体もみられるため，今回の研修会での情報を参考に，今後，役員で産地の維持・発展に向けた検討を行うことになりました。

普及センターでは，今後も当地域のりんご等果樹の産地育成支援を行っていきます。

### ○JAみやぎ仙南蔵王地区なし部会現地検討会が開催されました
令和3年7月1日
大河原農業改良普及センター

県内一のなし産地である蔵王町では，４月の凍霜害で甚大な被害が発生しています。

ＪＡみやぎ仙南蔵王地区なし部会は６月９日に現地検討会を開催し，その後の技術対策を検討しました。

当日は 35 人の部会員が参加し，農業・園芸総合研究所花き・果樹部果樹チーム職員を講師として実施しました。

検討会では，普及センターから，気象経過，生育状況，凍霜害を受けた場合の管理，病害虫防除について説明を行いました。

その後，４園地を巡回し，着果数や果実の障害程度，新梢の発生状況を確認し，凍霜害を受けた場合の摘果や新梢管理について実演指導を行いました。

被害程度は，園地，樹，側枝ごとに異なり，適切な管理が必要であることを農業・園芸総合研究所の指導のもと確認しました。また，次年度に向けて病害虫防除を確実に行うよう呼びかけました。

普及センターでは，今後もＪＡみやぎ仙南，試験研究機関や蔵王町をはじめとした行政機関と連携して，凍霜害対策の技術支援を行っていきます。

### ○仙台せり振興協議会役員会が開催されました
令和3年7月5日
亘理農業改良普及センター

６月 30 日に，仙台せり振興協議会の役員会が開催されました。今回，２名の新規会員の入会が承認され，会員は 81 名になりました。

名取市は県内有数のせりの生産地で，県内生産量の約 70%を占めています。名取市等で栽培されているせりは「仙台せり」として仙台・京浜・東北一円・札幌の各市場へ９月～４月に出荷されています。

近年，仙台市内の飲食店では，せり鍋ブームにより需要が高まっています。

また，現在申請中の「仙台せり」の地理的表示（ＧＩ）保護制度の進捗状況について，事務局から新型コロナウイルス感染症対策により，現地調査が遅れているとの説明があり，改めて，ＧＩ指定を受けるため，組織一丸となって取り組まなければならないと意識統一されました。

普及センターでは，今後も，せりの産地育成を支援していきます。

## ○宮城県ころ柿出荷協同組合現地検討会が開催されました

令和3年7月5日
大河原農業改良普及センター

白石市，蔵王町，丸森町は干し柿の生産が盛んな地域ですが，４月の凍霜害で甚大な被害が発生しました。宮城県ころ柿出荷協同組会は技術対策の検討するため，6月９日に丸森町で現地検討会を開催し，当日は13人の組合員が参加しました。

普及センターからは，凍霜害を受けた場合の事後管理，病害虫防除対策について説明を行い，３園地を巡回して被害程度を確認し，新梢管理を実演指導しました。

被害が大きかった園地では，花芽が全て枯死し，1か月程度遅れて副芽や不定芽が発芽しており，新梢数も少ない状況です。着果数や新梢発生状況は園地，樹，側枝ごとに異なり，被害程度に応じた管理が必要です。また，着果していない園地でも次年度に向けて病害虫防除を確実に行うよう呼びかけました。

普及センターでは，今後も凍霜害対策の技術支援を行っていきます。

## ○JA新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が開催されました

令和3年7月6日
仙台農業改良普及センター

ＪＡ新みやぎあさひなりんご部会の現地検討会が6月 29 日に開催され，部会員４名が参加しました。

当日はそれぞれの園地を巡回しながら，栽培管理や生育，病害虫の発生状況等の確認を行いました。各園地では４月の低温により霜凍害が発生し，着果量が不足している状況でしたが，果実肥大は良好であり，病害虫の発生もあまり見られませんでした。

しかし，着果量が少ないと，樹の生育が旺盛になりやすく，枝が混み合うため病害虫防除の効果が落ちること，受光体制が悪くなり来年産の花芽に悪影響を及ぼすことが懸念されます。そのため，枝の誘引や新しく伸びた枝の剪定などの管理方法を中心に指導をしました。

参加者同士で各園地の管理状況や生育状況について意見交換が行われ，自分の園地の管理方法を見直す良い機会となったようです。普及センターでは今後も情報提供や技術指導を行い，果樹の安定生産を支援していきます。

## ○亘理地域にて「第２回シャインマスカット栽培研修会」を開催しました

令和3年7月7日
亘理農業改良普及センター

亘理農業改良普及センターでは，シャインマスカット栽培技術の向上と省力化を目的に，プロジェクト活動に取り組んでいます。６月 30 日，プロジェクトで支援する生産者等を対象にした「第２回シャインマスカット栽培研修会」を，管内３か所のほ場を巡回する形で開催しました。

最初の会場である亘理町内シャインマスカット生産者のほ場にて，普及センター職員より，摘粒方法や今後の管理等について説明を行いました。その後，各生産者のほ場を回り，栽培概要や現在の生育状況等について確認しました。

今回巡回したほ場では，収量増加を目的とした反射シート利用技術や，省力化を目的とした花穂形成器等の器具を利用している園地もあり，参加者は，生育状況や省力化の効果等について，活発に質問をしていました。

普及センターでは，今後も研修会の開催や個別巡回等により，当地域のシャインマスカットの普及拡大を支援していきます。

## ○青ねぎの現地検討会・出荷説明会が開催されました
令和3年7月9日
美里農業改良普及センター

６月 29 日，大崎市鹿島台地区では露地青ねぎの現地検討会及び出荷説明会が開催されました。

現地検討会は雨天での開催となりましたが，３法人のほ場を巡回し，１回目の刈り取り収穫が始まった露地青ねぎの生育状況の確認や梅雨時期の病害虫防除について検討しました。これまでのところ概ね計画通りの収穫となっており，２回目の収穫時期は，８月下旬から９月上旬にかけての見込みです。

出荷説明会では，ＪＡ全農みやぎから青ねぎの販売情勢について説明があり，７月からの青ねぎ需要について議論されました。また，鹿島台地区内にある集出荷調製施設では，全４ラインをフル稼働して青ねぎの調製作業が行われていました。

露地青ねぎの刈り取り収穫は，年内に３回，11 月頃まで行われる計画です。

## ○JAみやぎ仙南白石地区果樹部会現地検討会が開催されました
令和3年7月9日
大河原農業改良普及センター

ＪＡみやぎ仙南白石地区果樹部会は，りんごを中心に果樹を栽培している生産者の部会です。６月 28 日に白石市と大河原町のりんご園で現地検討会が開催され，当日は，ベテラン６人と若手４人の部会員が参加しました。また，白石市農林課，NOSAI 宮城県南支所の担当者も同行し，生育状況を確認しました。

仙南地域は４月に凍霜害が発生し，りんご園の一部では着果数が少ない状況です。普及センターからは凍霜害を受けた園の栽培管理，病害虫防除について説明を行いました。

各園地の巡回では，凍霜害を受けた場所でも，適切な管理により残った果実の生育は順調であることが確認され，新梢管理や品種の特性等について情報交換が行われました。若手の部会員は自分でせん定した樹の着果や日当たり状況を確認し，せん定技術の習得に手応えを感じていました。

普及センターでは，今後も凍霜害対策の技術支援や若手果樹生産者の育成を行っていきます。

## ○関係機関一体となって園芸特産振興を図ります
令和3年7月12日
石巻農業改良普及センター

６月 25 日に石巻合同庁舎において，令和３年度第１回石巻地域園芸特産振興会議を開催しました。この会議は，石巻市，東松島市の園芸担当者及びＪＡいしのまき園芸課や，関係機関の担当者が出席し，石巻地域の園芸振興策や，園芸特産物のＰＲ等を協議する場となっています。

今回は新しい「みやぎ園芸特産振興戦略プラン（Ｒ３年度～Ｒ７年度）」が作成されて初めての会議開催となり，新しい目標では園芸産出額を令和７年度に県全体として 500 億円とする推進目標を掲げます。これらを踏まえ，宮城県園芸推進課及び東部地方振興事務所農業振興部から新しいプランの説明及び目標達成に向けての推進方策等の説明が行われました。

会議の後半では，露地野菜の振興について意見交換を行いました。ＪＡいしのまきではかんしょ（サツマイモ）とアスパラガスを振興品目として支援を強化していくことが紹介され，宮城県ではえだまめ，ばれいしょについて今年度よりプロジェクトチームを立ち上げ振興していくことを紹介しました。管内で露地野菜を振興して行くためにどのような課題があるのか等，活発に議論が行われました。また，宮城県オリジナル品種のいちご「にこにこベリー」について，県園芸推進課及び石巻農業改良普及センターから今年度の生産振興や販売フェアについて紹介しました。

今後も，関係機関一体となって石巻地域の園芸特産振興を進めていきます。

## ○ハナトピア産直市の野菜栽培講習会が開催されました！

令和3年7月13日
亘理農業改良普及センター

７月８日，ハナトピア産直市の野菜栽培講習会が開催され，19 名の直売所出荷生産者が参加しました。

当日は，亘理普及センター職員が講師となり，事前に生産者からいただいた質問に対して回答する形で講習会を行いました。質問内容は，連作対策やトマトの尻腐れ・葉先枯れ症状対策，アザミウマ類やハダニ類の害虫対策，ブロッコリーのべと病やねぎのさび病の病害対策等の様々で，普及センターから原因やその対策ついて説明しました。

普及センターでは，今後も栽培講習会や現地巡回を通して，野菜栽培技術向上を支援していきます。

## ○登米市内のりんご凍霜害の実態が明らかになってきました

令和3年7月16日
登米農業改良普及センター

登米市は，およそ 25ha でりんごが栽培されている県内有数のりんご産地ですが，４月の開花時期前後に低温に見舞われたことによる凍霜害が発生しました。

５月から６月の時点で，主に着果不良の発生が報告されていましたが，７月 14 日に登米市・ＪＡみやぎ登米・登米農業改良普及センターの３者で改めて生産者の方々を巡回し，凍霜害の実態を調査しました。

その結果，管内各地で“さび果”や“変形果”が多く，平年並みの着果量が確保できないなど，深刻な被害を受けている実態が明らかになってきました。

また，登米市中田町のりんご生産者で組織する「上沼観光りんご生産組合」は，例年，りんごの木のオーナーを募集して収穫体験等を行っていますが，今年は十分な収量が見込めないため，オーナーの募集を停止するなど，影響が出ています。

りんご栽培歴 50 年のベテラン生産者が「ここまでの被害は記憶にない」というほどの凍霜害が発生したことから，登米市では，この日の聞き取り内容を元に被害額の取りまとめなどを行う予定です。

普及センターでは，引き続き被害の実態を把握するとともに，来年に向けた支援をしてまいります。

## ○「あ・ら・伊達な道の駅花」卉部会の露地ギク現地検討会を開催しました

令和3年7月16日
大崎農業改良普及センター

大崎市岩出山にある，「あ・ら・伊達な道の駅」では，４年前から花き部会の一部会員が盆・彼岸出しの露地ギク栽培を新たに開始し，地元産の花きの生産拡大に取り組んできました。大崎農業改良普及センターでは，７月７日に今年度露地ギクの栽培を行っている部会員７名と現地検討会を行いました。部会員のほ場を見学しながら，病害虫の防除や輪ギクの芽かきなどの盆出荷に向けた栽培管理を改めて確認しました。ほ場見学後は，新たな商品の開発に向けた情報交換などが活発に行われました。

普及センターでは，今後も大崎地域の花き振興を支援して参ります。

## ○JA古川いちご部会親株巡回指導を実施しました！

令和3年7月20日
大崎農業改良普及センター

７月５日にＪＡ古川いちご部会のいちご親株現地巡回が開催され，ＪＡ古川園芸課職員とともに管内のいちご生産者６名のほ場を巡回し，生育状況の確認・指導を行いました。

現地巡回では，各ほ場のいちご親株の管理状況や，親株から出る苗の発生状況を確認しながら，今後の管理のポイントについてアドバイスを行いました。また，育苗時の炭疽病とハダニの発生に気をつけるよう注意喚起するとともに，具体的な防除方法について説明を行いました。

さらに，令和３年産の振り返りを行うことにより，各生産者の課題を再確認し，次作への対策を検討しました。

生産者の中にはすでに採苗，仮植をおこなっている方も見られ，ほとんどの生産者は目標とする定植苗数を確保できる見込みです。

普及センターでは令和４年産いちごの生産量がさらに増加するよう，引き続き支援を行っていきます。

## ○長ねぎ現地検討会を開催しました

令和3年7月20日
石巻農業改良普及センター

ＪＡいしのまき管内の石巻市，東松島市では長ねぎ栽培が盛んに行われています。今後産地の主力となる夏ねぎ，秋冬ねぎの出荷が本格的になるのに向けて，石巻市長葱生産組合の現地検討会を開催しました。

栽培農家，ＪＡ，普及センターの参加により，石巻市内６か所のほ場を現地視察して，現在の生育状況の確認と今後の管理について指導を行いました。春以降の生育初期段階で乾燥が続いていたため，生育はやや遅れ気味ですが，６月以降の降雨等により回復傾向で平年並の出荷が期待できます。

ＪＡいしのまき管内は，野菜指定産となっている秋冬ねぎを中心に，夏ねぎ，越冬ねぎ，春ねぎ等周年で長ねぎの出荷を行っています。肥沃で排水の良い畑地で栽培されており，品質が良く「ＪＡいしのまきの長葱」のブランドで販売しています。是非ご賞味ください。

## ○りんご研修会を開催しました

令和3年7月21日
亘理農業改良普及センター

亘理管内は県内有数のりんご生産地です。

梅雨時期の病害虫の発生状況や生育状況を確認するため，名取市果樹振興協議会（６月 14 日開催）とＪＡみやぎ亘理逢隈支所果樹振興協議会（６月 16 日開催）が研修会を開催し，生産者とともに各地区のほ場を巡回しました。

今回巡回した地区では，いずれも昨年度に比較して病害虫の発生が少なく，生育状況も良好でした。普及センターからは，ダニの発生への注意と新梢管理や着色管理等について指導を行いました。

普及センターでは，今後も研修会や巡回指導等を通じて，当地域のりんご栽培技術の向上に向けて支援していきます。

## ○JA新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催されました

令和3年7月27日
仙台農業改良普及センター

７月 15 日，大和町のぶどう「シャインマスカット」ハウスを会場に，ＪＡ新みやぎあさひなぶどう部会の栽培講習会が開催され，部会員 20 名が参加しました。当普及センターが講師となり，仕上げ摘粒と袋かけ作業について指導しました。また，樹形が完成した園地では房を着けすぎてしまう傾向があることから，品質の良いぶどうをつくるため，適正着房数について説明しました。さらに，梅雨明けを控えていたことから高温乾燥時の注意点について説明しました。

「シャインマスカット」は順調に生育しており，収穫は当初予定していた９月下旬より始まる見込で，10 月には販売会の開催を予定しています。収穫シーズンに向けてもうひとふんばりです。

普及センターでは，引き続き，高品質なぶどうの生産に向けて同部会を支援していきます。

## ○いちご親株苗増殖ほの巡回指導を行っています
令和3年7月27日
仙台農業改良普及センター

令和５年産用のいちご親株苗増殖ほの巡回指導を，公益社団法人みやぎ農業振興公社及び宮城県農業・園芸総合研究所，ＪＡ仙台とともに，令和３年４月 27 日から行っています。親株苗を出荷する 11 月上旬までの間，管内の親株苗（品種：もういっこ）生産者のほ場で，月２回生育状況の確認と栽培管理等の指導を行うものです。

これまでの生育は順調で，苗数も昨年の同時期より多くなっています。害虫の発生が若干確認されたものの，これまでの適切な防除により抑えられています。

今後も，ほ場の巡回指導を通して適切な栽培管理支援を行い，より健全な親株苗の生産を目指します。

## ○凍霜害対策技術（防霜ファン）勉強会を開催しました
令和3年7月28日
栗原農業改良普及センター

７月 21 日，栗原合同庁舎において凍霜害対策技術（防霜ファン）勉強会を開催し，管内のりんご生産組合代表者等 15 名が参加しました。

本年度，春先の降霜により，りんごの結実率や果実品質等に大きな被害が出ており，生産者からの「凍霜害対策技術について改めて勉強したい」との声から，防霜対策技術の一つである防霜ファンについて，メーカーより技術指導を受けようと企画したものです。

今回の勉強会では，防霜ファンメーカーから，商品紹介だけではなく，年々深刻になっている温暖化の現状，凍霜害に遭遇しやすい園地形状や気象条件などの他，防霜ファン開発に当たって積み重ねてきた研究と科学的な裏付けから，防霜ファンによる凍霜害回避のメカニズムとその効果を丁寧に説明いただきました。

温暖化により，平均気温が年々上昇し，りんごの生育ステージが早まることで，凍霜害に遭遇する危険性が増してきています。導入に当たっては経営的な面からも検討しなければなりませんが，生産者の多くは，「このような『異常気象』が『通常気象』になってしまうようであれば，りんご経営，産地が危機に陥る。何らかの対策を講じていかなければならない。」と危機感を持っています。

普及センターでは，今後もタイムリーな研修会や情報提供等を通じ，りんご産地の強化を支援していきます。

## ○JAいしのまき河南いちご部会実績検討会が開催されました
令和3年7月29日
石巻農業改良普及センター

河南いちご部会では，15 名の生産者がいちご栽培に取り組んでおり，「とちおとめ」，「紅ほっぺ」，「もういっこ」，「にこにこベリー」の４品種が作付けされています。

実績検討会においては，いちごの生育概況や販売実績について報告がありました。令和３年産は，単価が若干落ち込んだものの，良品質で出荷量も多く，販売金額は前年同様となりました。令和４年産の出荷販売対策については，近年出始めた萎黄病・萎凋病などの土壌病害対策の強化と共に，栽培管理等について技術を確立し，出荷量・品質の向上を目指す予定です。

普及センターからは，土壌病害対策として，土壌消毒の農薬の紹介を行いました。また，炭疽病に関して，QoI 剤耐性炭疽病菌についての情報提供やローテーション散布の推奨を行い，予防防除の徹底を呼びかけました。

今後も現地検討会を通しながら，いちごの品質の向上・収量の安定化に取り組んでまいります。

## ○JA新みやぎあさひな地区本部ねぎ部会栽培講習会が開催されました
令和3年7月30日
仙台農業改良普及センター

７月 16 日にＪＡ新みやぎあさひな地区本部ねぎ部会の栽培講習会が開催され，約 40 名の生産者が参加しました。

講習会では，ＪＡ新みやぎの担当者から「夏の栽培管理のポイント」として，高温期の無理な土寄せを行わないこと，豪雨や台風などに備えて排水対策を徹底することなどの説明がありました。また，今年はアザミウマなどの害虫の発生が多いこともあり，各ほ場での初期発生の確認と，早期防除の徹底を呼びかけました。

普及センターからは，ねぎの主要病害虫の被害症状や発生時期，防除薬剤について説明しました。ほ場をよく観察し，症状や発生状況に応じた適切な防除や，農薬のローテーションを考慮した効果的な防除の実施などについて指導を行いました。

部会では，今年度は約 12 ヘクタールでねぎの栽培を行っており，生産者の意識も高いことから，普及センターでは生産安定のため，引き続き技術的支援を行っていきます。

## ○えだまめの相互巡回検討会を開催しました
令和3年7月30日
仙台農業改良普及センター

７月 26 日，大郷町前川地区において，えだまめの相互巡回検討会を開催しました。今年えだまめを栽培しているプロジェクト課題の指導対象で，農事組合法人かすかわと有限会社薬師農産の他，地区内の有限会社大郷グリーンファーマーズの構成員を対象に行いました。

検討会では，お互いのほ場を見学しながら現在の生育状況を確認し，管理状況について情報交換を行うとともに，今後の栽培管理として，助言者としてお招きしたカネコ種苗株式会社の担当者から，開花から収穫までの日数の目安や，収穫適期の莢の状態の見方などについて御指導をいただきました。普及センターからは，良品生産に向けた病害虫防除について説明しました。参加者は，まもなく迎える収穫に向けて熱心に耳を傾ける他，活発な質問がなされました。

普及センターではＪＡ新みやぎあさひな地区本部及び大郷町と連携し，今後も継続して生産者を支援していきます。

## ○JAみやぎ登米花卉部会の菊現地検討会開催
令和3年7月30日
登米農業改良普及センター

７月 20 日にＪＡみやぎ登米花卉部会の菊現地検討会が開催され，部会員や市場関係者等 10 名が参加しました。

当日は，南方町と中田町の３か所のお盆出荷用スプレーぎくの施設を回り，生育状況を確認しました。例年より早い梅雨明けとなり，高温傾向が続いた影響などから開花が１週間程度早まりましたが，病害虫の発生もなく，生育・品質とも良好でした。

普及センターからは，今後も高温傾向が続くので，アザミウマ類などの害虫に注意し，発生初期の防除を徹底することを確認しました。市場関係者からは，需要期に向けて計画的な出荷をお願いしたいとの依頼がありました。

ＪＡみやぎ登米花卉部会のスプレーぎくは，令和２年度販売実績で，出荷数量約 120 万本，販売額約 8,200 万円と県内一を誇ります。部会員・関係者とも，お盆時期の良品出荷に向けて意識を高めていました。

## ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

### ○水稲採種ほ審査が始まりました
令和3年7月2日
大崎農業改良普及センター

水稲の種子を生産する「採種ほ」では，一般農家が来年使う水稲種子生産を行っています。県は「主要農作物種子条例」に基づく種子審査を行っていますが，これは，種子を生産するほ場及び作物に対して，ほ場での審査（ほ場審査）とそこから収穫された生産物の審査の２種類の方法で行います。

ほ場審査は，文字どおり種子生産ほ場に直接赴いて審査をするものです。このほ場審査の第１回目となる「予備審査」が６月 25 日から始まりました。審査員には農業改良普及センターの職員が当たっています。

主な審査内容は，①ほ場の地名・地番や品種，生産者名などを現地で確認すること。②種子を生産するほ場（特定種子生産ほ場と言います）での異種・異株の有無や病虫害の発生状況。③特定種子生産ほ場周辺水田の稲に種子伝染性の病害（特にばか苗病）が無いかどうかの３点です。

採種ほ場から生産される「たね」が多くの農家に供給され，来年の稲作に使われるので，種子生産は大変重要です。このため，今回の審査を含め，３回のほ場審査と発芽率や異種・異品種の混入がないことを確認する生産物審査を行い，初めて「たね」として合格となります。

種子審査を担当する農業改良普及センターでは，多くの時間と人員を配して，この業務に当たっています。

### ○みやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座～」の開催
令和3年7月14日
石巻農業改良普及センター

石巻普及センターでは，学生や新規就農者が農業技術や流通販売，地域活動について研修し，農業への理解を深め，進路選択の参考にすることを目的としたみやぎ農業未来塾「在学者コース～石巻地域の農業紹介講座～」を開催しています。

６月 14 日に,石巻北高等学校食農系列３年生 16 名を対象として「株式会社デ・リーフデ北上」を視察しました。

鈴木社長は，東日本大震災で甚大な被害を受けた石巻市北上地区で震災復興と地域農業を再生するため「愛ある農業を通して人々の心を豊かにし健康で笑顔あふれる社会を築こう」を経営理念に掲げ，オランダの高軒高ガラス温室での高度環境制御養液栽培システムを導入し,トマト 1.1ha とパプリカ 1.3ha を生産販売していることなどを話されました。

阿部総務部長は，コンピューター制御の最新設備で植物の光合成能力を最大限に引き出し，若い社員が週休２日制で生産に取り組んでいること，ゲーム感覚で生育をコントロールするような部分があり，機械や数学が好きな人が向いているので是非就職を希望してほしいということを話されました。

生徒達は初めて見る最先端の設備に驚き，農業のイメージを変えられたようでした。

### ○JA加美よつば稲作部会色麻支部現地検討会が開催されました
令和3年7月14日
大崎農業改良普及センター

７月 12 日，ＪＡ加美よつば稲作部会色麻支部にて水稲の現地検討会が開催されました。

今年度の水稲の生育は，５月の強風や少日照でスタートは出遅れましたが，６月からの好天により平年並に回復しています。７月に入ってからは雨の日が続き，いもち病の発生が懸念されています。

普及センターからは，多くのほ場で幼穂形成期を迎えていることから，生育状況を見ながらの追肥，間断かん水の実施など，適切な管理の徹底をお願いしました。出席者からは，現在の生育状況，追肥を行うタイミング等についての質問が出されました。

普及センターでは，引き続き水稲の安定生産に向けた指導を行っていきます。

## ○JA新みやぎ栗っこ地区稲作三部会合同ほ場巡回検討会が開催されました
令和3年7月16日
栗原農業改良普及センター

７月 12 日にＪＡ新みやぎ栗っこ地区管内において，稲作三部会合同ほ場巡回検討会が開催されました。本検討会はＪＡ新みやぎ栗っこ地区管内の３つの稲作部会（多収穫米生産部会，ブランド米生産部会，米戦略部会）が合同で開いた検討会で，各部会員が展示ほの生育状況を確認し，相互に意見交換を行うことを目的として開催されました。

はじめに，普及センターから７月９日に実施した生育調査結果と今後の栽培管理について説明した後，「だて正夢」現地栽培技術普及展示ほに移動し，「だて正夢」の追肥時期，追肥量等について検討を行いました。その後，ＪＡ稲作部会の各展示ほを巡回し，多収穫米「しふくのみのり」の試験栽培ほ場や，農薬・肥料の試験ほ場の検討を行いました。

各展示ほの生育は順調に進んでおり，特にいもち病に強く，耐倒伏性に優れ，高温耐性を持つとされる「しふくのみのり」については，収量・品質への期待もあり，部会員等の関心が高まっています。

## ○水稲あぜ道講習会が開催されました
令和3年7月20日
亘理農業改良普及センター

７月 14 日と 15 日の２日間，ＪＡみやぎ亘理が主催する水稲あぜ道講習会が開催され，57 名（うち「だて正夢」生産者８名）の生産者が参加しました。１日当たり３か所の計６か所の会場を回り，水稲の生育状況，幼穂形成期における倒伏診断，今後の管理のポイントとして，効果的な追肥，気象情報に基づく低温・高温時の水管理，いもち病，紋枯病，斑点米カメムシを中心とした病害虫防除対策の説明や，新品種「だて正夢」，「金のいぶき」の作付拡大に向けた啓蒙活動を行いました。

新型コロナウイルス感染拡大の防止策として，マスク着用，人との距離を十分取りながら説明を行いました。

参加者からは「近年増加傾向にある紋枯病の箱施用剤の効果」や「パイプラインからのオモダカ増加に悩まされている」とか，「長雨によるいもち病を心配している」といった質問や意見が出されました。

令和３年産米の品質向上に向け，普及センターでは引き続き支援していきます。

## ○栗原地域で「だて正夢」「金のいぶき」の現地検討会を開催しました
令和3年7月21日
栗原農業改良普及センター

７月 16 日に，水稲品種「だて正夢」「金のいぶき」を対象とした現地検討会を栗原市内の現地ほ場で開催しました（主催：宮城県米づくり推進栗原地方本部）。

はじめに，築館地区の「だて正夢」展示ほにおいて，「だて正夢」の生育状況や今後の管理のポイントなどを普及センターから説明しました。また，スマート農業技術として普及しつつあるドローンによる農薬散布のデモ飛行も行い，留意点などについて関係事業者から説明を受けました。

次に，一迫地区の「金のいぶき」展示ほに移動し，「金のいぶき」の生育状況を確認するとともに，品種特性などについて学習しました。

参加した生産者は，他の生産者のほ場を見たり，栽培管理の説明を受け，今年の収量・品質の確保に向けて意欲を高めていました。

普及センターでは，「だて正夢」及び「金のいぶき」の安定生産が図られるよう，今後も関係機関と連携し支援していきます。

## ○令和3年産「だて正夢」地域栽培塾を開催しました

令和3年7月27日
大河原農業改良普及センター

大河原管内は，「だて正夢」の作付比率が高い地域となっています。

現在，「イネ」には幼穂が形成され，これから約1か月間，「イネ」にとって最も重要な時期を迎えることから，7月13日，高品質・収量安定化に向けて「だて正夢地域栽培塾」を角田市及び蔵王町の2会場で開催しました。

地域栽培塾では，7月9日の生育調査結果に基づいた現在のイネの生育状況について説明したほか，実証水田の葉色や幼穂長を確認し，追肥の判断や出穂期の予想を行いました。また，7月9日に「葉いもちの注意報」が病害虫防除所から発表されたことから，いもち病の発生と今後の管理に注意するよう説明しました。参加者からは，自分のほ場の生育状況に合わせた管理方法等について質問がありました。

今後も生産者とともに生育状況を確認しながら，秋には，仙南のおいしい「だて正夢」を消費者の皆様に届けられるよう，生産者の研鑽の機械を作っていきます。

## ○令和3年度「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました

令和3年7月29日
登米農業改良普及センター

県内の「だて正夢」の作付面積は920haで，そのうち登米管内では128ha作付されています。

「だて正夢」の栽培技術の向上を図るため，7月7日に，宮城県米づくり推進登米地方本部の主催で「登米地域だて正夢栽培塾」を開催しました。管内の「だて正夢」生産者15人と関係機関合わせて31人が参加しました。

研修会では，普及センターより「だて正夢」の生育状況と今後の栽培管理について説明し，主に生育に応じた追肥の実施と適期刈取について呼びかけました。また，登米地域事務所農業振興部地域調整班より，過去3か年の管内の「だて正夢」生産状況について情報提供しました。

過去実績から見ると，平均単収は増加傾向にありますが，540kg/10aを超えるのは2割程度と，単収のばらつきが大きいのが現状です。単収を増やすためには，ほ場の選択，基本技術の徹底，追肥の工夫などが重要であることを説明しました。

続いて，普及センターの栽培普及展示ほを会場に，草丈，茎数，葉色を測定し，倒伏診断指標を用いた追肥判断の実演を行いました。

## ○水稲種子生産ほ場の予備審査を行いました

令和3年7月29日
登米農業改良普及センター

登米管内では，ＪＡみやぎ登米水稲種子採種組合が，約66haの採種ほ場で水稲の種子を生産しています。

県は「主要農作物種子条例」に基づき，「ほ場審査」と「生産物審査」を行っており，7月15日には，「ほ場審査」に先立ち，主に採種ほ場内と周辺のほ場にばか苗病の罹病株がないかどうかの確認を行いました。

採種ほ場から生産される種子は県内の農家に供給され，翌年の稲作に使われるため，種子生産は非常に重要となります。そのため，種子の基準は，種子伝染性の病虫害種子を含まないこと，発芽率 90%以上などと厳しく定められています。

特に，ばか苗病は種子伝染性の病害であり，稲の出穂時期に感染すると採種した種子が罹病種子となってしまうため，事前にほ場を確認し，発生があった場合除外することが必要です。

普及センターでは，今後2回の「ほ場審査」等を通じて，優良種子の安定供給が図られるよう支援してまいります。

## ○稲 WCS 専用品種「ホシアオバ」の生育状況を確認しました

令和3年7月30日
亘理農業改良普及センター

県では，飼料作物における奨励品種の普及拡大を目的として，展示ほを設置しています。亘理普及センターにおいては，稲 WCS 専用品種の「ホシアオバ」について，亘理町の畜産農家に協力をいただき，展示及び調査をしています。「ホシアオバ」は，宮城県において極晩生性で，多肥で茎葉比率が高く，多収となる品種です。

7 月 28 日には，関係機関が集まり，展示ほにおいて「ホシアオバ」の生育状況を確認しました。今年は天候にも恵まれ，順調に生育しており，高収量が期待されます。

今後とも普及センターでは，「ホシアオバ」の作付について推進していきます。

**○若手社員が水稲の栽培技術向上に励んでいます！**

令和3年7月30日
石巻農業改良普及センター

株式会社めぐいーと（東松島市）の若手社員の水稲栽培技術向上のため，6 月 30 日に水稲勉強会を開催しました。

(株)めぐいーとは，水稲 94ha，大豆 43ha，麦 28ha の土地利用型部門と，野菜 2.3ha（施設 0.9ha，露地 1.4ha）の大規模な複合経営を行っており，石巻普及センターでは，同法人の組織力強化に向けた，社内の体制整備，園芸・水田部門の栽培管理技術の向上を支援しています。

今回は，水稲部門の若手社員４名が水稲の有効茎確保と中干しの効果について学びました。また，乾田直播と移植栽培での茎の増え方と水管理の違い，品種毎に目標とする有効茎の違い，ヒエとイネの見分け方について，ほ場で確認しました。役員からは栽培管理状況と今後の肥培管理，除草剤散布，ほ場の特色について補足説明がありました。

若手社員からは，これまでの作業について，基本的な知識が得られ，今後の作業に意欲的に取り組めると好評でした。

## ２．農畜産物の安定供給

### ①時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

**○栗原市内の水稲種子生産ほ場の現地巡回を行いました**

令和3年7月5日
栗原農業改良普及センター

栗原農業改良普及センターでは，6 月 25 日及び 30 日に栗原市内の２つの水稲採種組合（一迫水稲採種組合，金成末野水稲採種組合）を対象とした種子生産ほ場の現地巡回を行いました。

県主要農作物種子条例において，水稲種子生産者は，出穂期と糊熟期の計２回の「ほ場審査」を受けなければならないことになっています。普及センターでは，ほ場審査に先立ち，種子生産ほ場１筆ごとに，種子生産の内容を示す旗の設置状況，生育状況，異株，雑草，病害虫の発生の有無などを，種子生産者及び関係者とともに確認しました。

管内の令和３年度の水稲種子生産状況は，ひとめぼれ，ササニシキ，つや姫など６品種，計 143 ヘクタールが作付けされています。普及センターでは，今後も「ほ場審査」等を通じて，優良種子の安定供給が図られるよう支援していきます。

**○宮城県米づくり推進気仙沼地方本部技術指導部会を開催しました**

令和3年7月13日
気仙沼農業改良普及センター

管内の生育調査ほや普及展示ほ（「金のいぶき」，「だて正夢」の移植栽培，「ひとめぼれ」の湛水直は栽培）を巡回し，現在の水稲生育状況を確認するとともに，今後の栽培管理について検討しました。

茎数や苗立の確保が難しかった「だて正夢」の移植栽培や「ひとめぼれ」の湛水直は栽培についても，現地農家の工夫で順調に生育が進みました。

また，本年度から管内では「金のいぶき」の展示ほも設置しており，今後の普及拡大が期待されます。
今年は５～６月が高温傾向で推移したため，水稲の茎数も平年と比較して早く増加が進み，出穂も早まると予想されます。今後は追肥や病害虫防除など，収量・品質を確保するための重要な時期となるため，市町や農協とも協力し栽培支援を行っていきます。

**○JAいしのまき水稲部会の現地検討会が開催されました**
令和3年7月29日
石巻農改良普及センター

７月 13 日にＪＡいしのまき水稲部会の現地検討会が開催されました。稲作部会員とその関係者約 20 名で，宮城県を代表するブランド品種である４品種「だて正夢」,「金のいぶき」,「ひとめぼれ」,「ササニシキ」の生産ほ場を巡回し，現在の生育状況の確認と今後の追肥の要否等について検討を行いました。
いずれの４ほ場ともに生育は順調で，幼穂の観察結果から生育ステージは既に幼穂形成期に達しており，出穂期は平年よりやや早まる傾向になること等を確認しました。巡回調査では，葉緑素計を使った葉色診断も行われ，葉色が淡くなっているほ場には，10ａ当たり窒素成分で１～２kg の追肥をするように指導を行いました。
当日は熱中症も心配されるほどの炎天下の中，参加者の間で熱心な検討が行われました。

## ３．持続可能な農業・農村の構築

### ①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

**○「南三陸クローバーウニ検証プロジェクト」の取組**
令和3年7月1日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼地方振興事務所では，海の磯焼け対策と農地の耕作放棄地解消を図るため，令和２年度から「南三陸クローバーウニ検証プロジェクト」に取り組んでいます。当プロジェクトでは，宮城大学から技術的な助言を受け，地元の水産業者と農家に協力をもらいクローバーを餌としたウニ養殖試験やクローバー栽培を行っています。
６月 16 日，宮城大学と当事務所の水産漁港部，農業振興部（普及センター）でウニ養殖試験の現場やクローバーほ場を見学し，今後の活動等について打合せを行いました。昨年秋に播種したクローバーは順調に生育しており，今後，刈取機によるクローバー収穫を予定しています。
気仙沼地域の海・山・里が結びついた産業振興につながるよう，今後も活動を継続していく予定です。

**○集落の農業機械の集約を図る**
**－集落営農組織の勉強会で今後を検討－**
令和3年7月2日
大河原農業改良普及センター

６月 22 日，川崎町古関地区の集会所において，集落営農組織としてこの秋に法人化を目指す古関集落の農業者 11 名が集まり，今年度３回目の勉強会が開催されました。
前回の勉強会後，オペレーター予定者で検討した結果を踏まえ，トラクターの作業料金を決定するとともに，集落内にある農業機械のリストから，設立予定法人や地区外農家への売却，移管，処分等について保有している農家それぞれの意向を確認しました。それを基に，効率的な機械利用ができるよう，法人で使用する農業機械類の査定を，法人構成員となるメンバーで行うことになりました。
機械装備は法人の営農計画，特に栽培品目の構成に影響されることから，「水稲＋α」の品目を何を選ぶかが重要であり，普及センターからは，安定経営となる作物選定と作付け比率について，農業経営コンサルタント等外部専門家から提言をもらうことを提案しました。
大河原農業改良普及センターでは，今後も法人化に向けた勉強会でのアドバイスと，新規作物の栽培技術支援をしていきます。

## ○わらびを新たな地域資源に！わらび栽培視察研修会
令和3年7月5日
大河原農業改良普及センター

丸森町筆甫地区では，中山間地の特性を活かした地域特産物として，わらび等の山菜栽培をスタートしました。これまで栽培研修会で技術の向上を図ってきましたが，今回は先進地の山形県西川町で視察研修会を開催しました。沼山わらび愛好会の代表から，栽培，収穫・出荷，加工について講演いただくとともに，栽培ほ場の見学を行いました。栽培のポイントや収穫する時の注意事項など丁寧に説明していただき，今後の管理等の参考になりました。また，加工についても，販売先により加工のオーダーが違うため，事前の調整の重要性を教わり，実際の塩蔵庫も見学させていただきました。さらに，わらび以外のふきやこごみなど山菜類についても教えていただくことができました。

その後，今後の加工品の開発の参考にするため，地元の産直で山菜や加工品の販売状況を視察し，山菜料理店で昼食を取りました。

参加者は，これまでの栽培からの改善点などを把握し，今後の栽培や加工品開発に向け，さらに意欲が高まりました。

## ○花山ルビィふさすぐり！今年は「スイーツde援農」と「おてつたび」で収穫応援！
令和3年7月6日
栗原農業改良普及センター

6月 22 日と 29 日に，栗原市花山地区のふさすぐり栽培園地で，栗原市及び仙台市の洋菓子店２店のパティシエが収穫作業を行う「スイーツ de 援農」を実施しました。この取組は，「花山ルビィふさすぐり」のスイーツへの活用を広げるとともに，収穫時の人手不足解消を図るため，昨年から実施しています。

今年は，２日間で 10 人のパティシエが参加しました。収穫した果実は，爽やかな酸味と鮮やかな赤色を生かしたスイーツとなって消費者に提供されます。参加したパティシエからは，「この収穫が毎年の恒例行事となれば良いと思います」，「瞬間冷凍をして年間を通してケーキの飾りとして使う予定です」といった感想をいただきました。単発の収穫応援に留まらない継続可能な取組として継続していく予定です。

また，今年度は，栗原市が実施する「おてつたび」（※地域外の若者が旅行をしながら地域を手伝う取組）の企画への参加者が，ふさすぐりの収穫作業を手伝っています。第１クールの６人は 23 日，24 日の２日間収穫を行いました。参加者からは，「ふさすぐりの赤色は，本物のルビィのようにきれいだと思いました。収穫は，夢中になって作業をしましたが，粒にする調製作業は収穫の２倍以上の時間がかかり，農家の方の苦労がわかりました。」との感想が聞かれました。

29 日からは第２クールが入りました。花山を訪れるのは２回目，３回目という参加者もおり，花山のファンが増加中です。

## ○大谷いも復活に向けた取組がテレビ放映されました
令和3年7月13日
気仙沼農業改良普及センター

気仙沼市大谷地区の道の駅大谷海岸直売組合では，令和元年から大谷いも（ばれいしょ）復活プロジェクトに取り組んでいます。戦後の食料難の時代，大谷地区は高品質なばれいしょを生産する産地として高く評価されていましたが，最近の作付は大きく減少していました。直売組合では道の駅のリニューアルに合わせ，大谷いも生産の復活に取り組んでいます。

７月２日には，在仙のテレビ局により，ばれいしょほ場や道の駅大谷海岸で大谷いもの取材が行われ，７月７日に放映されました。

ほ場では，大谷いもは品種「男爵薯」を使い，土づくりに海藻を使っていることが生産者から説明されました。また，リポーターによるばれいしょ収穫体験も行われ，肌のきれいなばれいしょに感動した様子でした。

続いて道の駅では，地元中学生による大谷いもを原料にしたポテトチップス作りの取組や，昨年度開発しファーストフードコーナーで販売されているばれいしょ加工品「ジャケットポテト」が紹介されました。また，普及センターからは，ばれいしょの安定生

産に向けた，土壌診断に基づく肥培管理の取組について説明しました。
大谷いもは道の駅大谷海岸で７月１日から販売を始めており，７月 24 日，25 日には道の駅で販売イベントを開催する予定です。ぜひ復活した大谷いもをご賞味ください。

## ②環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援

### ○GAP 研修会を行いました
令和3年7月8日
石巻農業改良普及センター

６月 27 日に石巻合同庁舎において，環境保全型農業直接支払交付金における GAP 研修会が開催されました。当該交付金の支給にあたっては，平成 30 年から国際水準 GAP の実施が要件となっており，本研修会はその取組の一つで，当日は，管内で環境保全型農業に取り組む生産者や生産組織の構成員約 20 人が参加しました。
研修会では，普及センター職員が講師となり，GAP の概念や５つの基本項目（「食品安全」,「環境保全」,「労働安全」,「人権保護」,「農場経営管理」）について理解を深めました。研修の後半には，６つの事例を紹介し，「食品安全」や「労働安全」の実践的な知識の向上を支援しました。

### ○南三陸町で田んぼの生き物観察会が催されました
令和3年7月14日
気仙沼農業改良普及センター

７月６日，南三陸町入谷地区の新童子下集落において，南三陸町立入谷小学校３・４年生 20 名を対象とした田んぼの生き物観察会が開催されました。講師には，農業と自然環境が共生できる農村自然環境の復元を目指して活動している「ナマズのがっこう」の三塚事務局長をお迎えしました。三塚氏からは「入谷地区の水田には，環境に大きな影響を与える外来生物であるアメリカザリガニやウシガエルがいません。県内でもとても希少な環境なんですよ。」と入谷地区の自然環境の特徴について説明されました。
観察会が始まると，子供達は，水田や畦畔・水路にいる昆虫やカエル・イモリ等を採集したり，偶然見つけたアキアカネの羽化の様子を観察したりしました。たくさんのカエルが採集できて満足した子，イモリが捕れなかったと不機嫌になる子，自分の家の庭には蛇もいると自慢する子と様々でしたが，自分達の住んでいる地域の自然環境の豊かさを再発見したようでした。なお，採集したカエル等は観察会終了後，自然に帰しました。
観察会終了後，南三陸産米のおにぎりが児童達に振る舞われました。「お昼に給食も出るから，１人２個までにしなさい！」と言う先生の注意を振り切り，もっと食べようとする子供がいるほど，美味しかったようです。

### ○志波姫有機米栽培協議会の環境保全米栽培現地検討会が開催されました
令和3年7月19日
栗原農業改良普及センター

７月８日にＪＡ新みやぎ志波姫有機米栽培協議会主催の環境保全米栽培現地検討会が開催され，会員 40 名が参加しました。最初に，現地ほ場において農協担当者から耕種概要等の説明を受け，環境保全米ひとめぼれの生育状況を確認しました。次に会議室に移動して行われた講習会では，普及センターから栗原市内の水稲生育情報と今後の管理について説明し，幼穂長と生育量を把握し適期に追肥するよう促しました。
当協議会は，環境保全米に取り組む地区内生産者で組織されています。協議会の活動として，友好姉妹都市の東京都あきる野市と 20 年以上交流を続け，関係するＪＡを通じて環境保全米を取引しています。現地検討会に参加した生産者は，環境保全米における食味向上・安定生産に対する決意を新たにしていました。

**③大規模自然災害等からの復旧・復興に向けた支援**

**○石巻市大川，北上地区で被災農地の土づくり現地検討会を開催しました**
令和3年7月28日
石巻農業改良普及センター

7月 12 日に当普及センターのプロジェクト課題「被災農地の土づくり」現地検討会を開催しました。石巻市の大川，北上地区の復旧農地は，東日本大震災の津波によって作土が流失したため，新たに客土を行いました。しかしながら，収量が低いことが課題となっており，堆肥などの有機物施用による土づくりが必要となっています。また，復旧農地では大規模土地利用型法人が担い手となり 200ha 弱の大面積の水稲を作付しており，省力化するために乾田直播栽培にも取り組んでいます。普及センターでは，復旧農地の地力向上に向けて堆肥を活用した土づくり実証ほや乾田直播栽培の生育調査ほを設置し，調査を行っています。

今回は(株)宮城リスタ大川，(株)ゆいっこ，(農)みのりのプロジェクト課題対象経営体や，北上川沿岸土地改良区，石巻市河北総合支所地域振興課，ＪＡいしのまき，東部地方振興事務所農業農村整備部などの関係機関約 30 名が集まり，大川，北上地区のほ場を巡回し，地力向上のため堆肥を散布したほ場，散布しなかったほ場での水稲の生育状況の違いや，乾田直播栽培と移植栽培での生育状況の比較などを行いました。堆肥を散布したほ場や除草剤を適期に散布できたほ場では順調に生育が進んでいました。

出席者たちはそれぞれのほ場の特徴や管理方法などについて意見交換を行い，土づくりや乾田直播栽培への理解を深めていました。普及センターでは今後も復旧農地への栽培支援を行っていきます。

**○オリーブ巡回指導会**
令和3年7月29日
石巻農業改良普及センター

石巻市では，平成 26 年以降オリーブの試験栽培が行われています。栽培面積は年々増加しており，令和３年４月時点で４ha あまりとなっています。

栽培の主体は平成 29 年に設立された「石巻市北限のオリーブ研究会」で，生産者団体の他，石巻市，復興庁，宮城大学や県が構成員となっています。研究会では，行事の一環として，香川県から(株)アライオリーブ社長の荒井雅信氏を講師としてお迎えし，定期的に指導会を開催しています。

今年４回目となる今回は７月 20 日，21 日の２日間にわたり，石巻市内６か所の栽培試験地を巡回指導する形で開催され，これから発生が多くなるオリーブアナアキゾウムシやカメムシ類，炭疽病などの病害虫の防除と，不要な枝を夏場に剪除する夏期せん定についてお話しがありました。

石巻産のオリーブは植栽後の年数が浅いこともあり，まだ本格的な収量には達していないため，現在のところ市販はされていませんが，昨年試作したオイルは上々の品質となっています。近い将来，石巻産のオリーブオイルが店頭に並びますので，お見かけの際は是非お買い求めいただき，御賞味くださいますようお願いします。

## ４．その他

**①要請・緊急対策，その他**

**○名取市内の花き生産者を対象に高収益作物次期作支援交付金の申請支援を行いました**
令和3年7月21日
亘理農業改良普及センター

農業においても様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響が発生していますが，特に花きの需要減少は大きく，経営面で大きな負担となっています。

状況の改善を図るために，亘理農業改良普及センターでは，７月 16 日に名取市が開催した高収益作物次期作支援交付金（第４次公募）の説明会に出席し，事業概要の説明を行いました。

本交付金は，新型コロナウイルス感染症により売上が減少した切り花等の高収益作物について，次期作に取り組む農業者を支援する国の制度であり，申請を希望する名取市内の花き農家 17 名に対して，市の担当者と一緒に制度の内容や要件を伝達し，申請書の作成を支援しました。

今後も農業者の支援制度の活用に向けたサポートや，経営改善に向けた支援を，関係機関と連携して実施していきます。

## 普及指導員が県内9か所の普及センターで，農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

**＊各農業改良普及センターには，「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら，上記連絡先にお問い合わせください。**


**みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.174**
発行日:2021 年 8 月 23 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp